
60秒間のメディテーション

亜倉 暮亜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

60秒間のメデイーション

【Nコード】

N2354BA

【作者名】

亜倉 暮亜

【あらすじ】

深夜、星の见えない空を見上げて、私はモーニングコールをする。

大事な用事があるから起こしてほしいのだという。シカゴの彼に、いわゆるモーニングコール。こちらは深夜なのだけれど、夜更かししてネットサーフィンしている私なら大丈夫だろうと思った訳だ。まあ、実際そうなんだけれど。

パソコンのウィンドウの片隅にある時間に目を遣る。次いでその隣にある目覚まし時計にも。

「00:50」「12:50」

彼はまだ、眠っているのだろう。

パソコンをスリープモードにして、頭からかぶっていた布団を這い出る。

向こうで言う朝10時に起こしてほしいとのことだった。時差の計算は私に任せる辺り、彼らしい。ところでその時間だと既に寝坊している気がするのだけれど、どうなのだろう。大方、用事時間のギリギリまで寝ていたいということなのだろうけれど。

縁側に出る。足音、布の擦れる音、冷たい空気を吸う音、湿って生暖かい息を吐く音、肩口で髪の毛が揺れる音。普段は気にならない微細な音が聞こえてくる。そしてそれらは、ぜんぶ私ひとりが出す音なのである。

携帯電話を開く。

「00:52」

まだまだ。

まだまだ。

見上げるとやけに黄色い月があった。星は見えない。

私の周囲はこんなに真っ暗だというのに、どこか遠くでは未だ起きていて誰かの部屋が、酔っ払いに手を揉むお店の看板が、ららん点っているのだろう。負けるな星よ。地上からの光なんかに、天の光が負けるな。

「00:53」

応援してみたけれど無反応で、相変わらず見えない星たちを、私は心の中に思い描いた。そうしてそんな星たちは、私の心に静かに静かに沈んでいった。

約束の時間の10分も前にこうして用意して、私は一体何をしているのだろう。

「00:55」

これから5分後に目覚める予定の彼に思いを馳せてみた。きっと昨晚眠ったのは、随分遅い時間だったのだろう。でなければ他人の助けなどなくとも、彼は一人で起きられるはずなのだから。すぐに私に頼ろうとするのもまた、彼なのだけれど。

くらい闇夜に取り囲まれて私は、あかるい朝日に包まれて未だ眠る彼に、ほのかに会いたいと思った。

不意に空気の冷たさに震う。向こうは昼間さえ寒いようだけれど、こちらの夜の方が冷たいに違いない。寒くなくとも、冷たいに違いないのだ。

…いいや、違う。あたかな布団にくるまった彼も、その実冷たい倦怠感に身を沈めているのだ。

どこか居心地悪く私の電話を待っているのだ。

「01:00」

携帯を開いて、それから目を閉じた。

…2、3…6、7、8…

…57、58、59、60。

「01:01」

これから朝に向かう私から、朝のまっただ中にいる彼へ。呼び出し音が鳴り響く。寝ぼけ声の彼に、おはよう、そしておやすみ。

いつか彼と満天の星空を見上げて、顔を見合わせておやすみを言いたい。そうして心置きなく眠って起きて、寝ぼけ顔の彼に、おは

ようと言いたいと願う。切に、切に。

（後書き）

習作。

日本とシカゴの時差は15時間。日本の方が早いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2354ba/>

60秒間のメディテーション

2012年1月5日23時47分発行